

コナガの生態等

○生態

- ・成虫は前翅長5.0～7.5mm。
- ・灰褐色。
- ・背中の前翅にひし形の模様がある(このことから、英語ではダイヤモンド・バック・モスと呼ばれている)。
- ・西日本の高冷地以外では、初夏と初秋に発生が増加し、盛夏期には減少する。
- ・休眠性がないため、冬期もゆっくりと発育を続ける。

○被害を受ける作物

- ・幼虫はキャベツ等のアブラナ科野菜を加害する。
- ・広島県では、キャベツの重要害虫として注意が必要となる。

○トラップの活用

- ・誘殺数が増加し始めたら、1週間～10日後に防除をするとよいと考えられる。
- ・ただし、コナガの発育速度や周辺の栽培環境によって大きく異なることがある。



写真1 コナガ雄成虫（右）と雌成虫（左）



写真2 フェロモントラップに誘殺された雄成虫